

# オオオニバス類栽培における用土と肥料の検討

西内良

## はじめに

当園ではオオオニバス *Victoria amazonica*、パラグアイオニバス *Victoria cruziana*、そして後者に前者の花粉を人工授粉させて得られた種子から栽培するロングウッドオオオニバス *Victoria* 'Longwood Hybrid' の計3種類のオオオニバス類を栽培している。例年、この3種を各1株ずつ、内径 1.75 m × 1.75 m × 0.6 m の木箱に用土を充填して株を定植し、大株に育てて展示している。2025年はそれまで当園で用いていた用土および肥料を変更し、栽培を行った。

## 変更の経緯

当園はこれまで、田土や、その古土を1年寝かせた再生用土を使用していた。また、肥料は元肥としてペレックス8号 (N:P:K = 8:8:8)、追肥は東商発酵油粕大粒 (N:P:K:Mg = 4:6:2:0.3) を通例として用いていた。しかし、用土について田土の入手が近年では困難であること、置場周囲の雑草や雑木が古土内に大量に混入し、使用前にそれらの除去に非常に労力と時間がかかるという問題を抱えていた。また、肥料においては有機肥料を用いており、追肥効果の速攻性に欠けることや、用土への埋め込みが浅いと、水質が悪化する、等の問題を抱えていた。

そのため、購入が容易な用土および化成肥料主体の施肥へと変更を行い、今シーズンの栽培を行った。

## 使用用土及び肥料

使用した用土と肥料を表1, 2に示す。5寸ポット育苗時および木箱定植時は表層に赤玉土を単独使用してマルチングとすることで、それ以下の層に混合したピートモスが水中で浮き上がることを防いでいる。加えて、木箱に用土を充填する際は用土に少しずつ散水しながら足で踏み均し、空気を抜いている。また、木箱定植後、6月1週から行った追肥 (各回 800 ml/株) に関しては、7月3週目までの初回3回分においては100 ml ずつ計8つに小分けにし、それぞれ20 cm 四方にカットした新聞紙を2枚重ねたもの

で包んだ。そして、木箱内に8点、直径20 cm、深さ30 cm ~ 40cm 程度の穴をスコップで掘り、この穴に肥料の包みを投入した後、スコップを突き刺して新聞紙を裂き、穴を埋め戻した。追肥4回目、5回目からは肥料の包みの仕様を160 ml × 5個へと変更した。これは、株が十分に生育していたために、施肥地点の肥料濃度が高くて根が肥料焼けしないであろうという予想と、施肥する地点数を減らし作業の簡略化を図るという目的による。実際に、この変更によるデメリットは栽培を続けていく中で特に確認されなかった。

## オオオニバス試乗会使用株 (ロングウッド) の生育経過

5月第3週に木箱に定植した時点では、最も大きい浮葉が20 cm 弱といったところであった。6月に入って追肥を行って以降、旺盛な生育を見せ、6月第4週には最も大きな浮葉の直径が110 cm に到達した。8月6日の試乗会初日に浮葉は最大のもので直径150 cm となっていた。また8月30日には、池の西岸と北岸に浮葉がぶつかり、新しい葉が展開および成長するスペースがなくなるほど、葉の枚数と葉のサイズの点において順調な生育をみせた (写真)。なお、試乗会に用いなかったオオオニバスやパラグアイオニバスについても同様に順調な生育をみせ、それぞれ葉の直径も130 cm まで育ったが、いずれも葉が池の壁に衝突し、枚数も多かったため、新葉の生育スペースが無くなってしまっていた。3株とも、追肥を続け、葉を間引き、葉の展開スペースを確保すれば、1枚あたりの葉の直径はさらに大きく成長することが予想された。しかしながら、当園の池の大きさでは3株を同時にこれ以上に広く育てることはできず、熱帯性スイレンの栽培スペースの圧迫にもつながること、作業手間等を総合的に判断した結果、いずれのオオオニバス類についても葉をさらに大きく育てることは見送った。

## おわりに

購入が容易な用土や、化成肥料を用いたオオオニバス類の栽培は十分に可能であった。そして、生育結果を慣例の用土および肥料を使用した過去の年度と比較しても、不具合は感じられなかった。しかしながら、これまでオオオニバ

スや熱帯性スイレンの栽培用土は、田土の無償提供や販売元の善意による安価での購入、あるいは田土の再利用が主であった。そのため今後、用土購入を前提とするならば、資材コストが課題になってくる。よって、今回使用した用土を再利用した栽培についても試しておく意義はあると考える。ただし、熱帯性スイレンは栄養繁殖で維持しているため、用土再利用の際はウイルス感染の問題に留意したい。



写真 オオオニバス類の生育状況 (8月30日)

表1 使用した用土

	初期育苗時 (3寸ポリポット)	中期育苗時 (5寸ポリポット)	木箱定植時
表層	赤玉土小粒 75% + ピートモス 25% *1	赤玉細粒で覆土 (厚み 1 cm 程度)	赤玉土細粒 140 L で覆土
上層	同上	赤玉土細粒 75% + ピートモス 25%	赤玉土細粒 280 L + ピートモス 90 L
下層	同上	赤玉土細粒 75% + ピートモス 25%	前年度使用田土 *2

\*1: 水を加えて練り、粘土状にした

\*2: ゴミの除去と天地返しを行っている

表2 使用した肥料と施肥量 (および施肥時期)

	最初期育苗時 (3寸ポリポット)	初期育苗時 (5寸ポリポット)	木箱定植以降
元肥	バーディーラージ 3 粒 (4月第1週) *1	東商発酵油かす大粒 2 粒 (5月第1週) *3	マイガーデン粒状肥料 800 g (5月第3週) *4
追肥	プロミック草花・鉢花用 1 粒 (4月第3週) *2	—	FT 化成 8 号 800 ml *5

\*1: N・P・K・Mg = 10・10・10・1

\*2: N・P・K = 8・12・10

\*3: N・P・K・Mg = 4・6・2・0.3

\*4: N・P・K・Mg = 10・18・7・0.6 表1における上層と下層の境界に均等に施肥

\*5: N・P・K = 8・8・8 6月第1週から9月第1週まで3週間ごとに合計5回施肥